

ウォーターボーイズを熱演 南風原高体育コース

9月28日、南風原高校で開催された第13回学園祭の中で、体育コースの3年生21名がシンクロナイズドスイミング「ウォーターボーイズ&ガールズ」を披露し、プールサイドを埋め尽くした観客を魅了しました。

同コースは平成27年度に廃止が予定されており、最後にみんなで思い出をつくろうと、夏休みから練習を積み重ねてきました。演技を終えて、級長の上原拓哉君(字大名)は「大観衆に緊張したが、失敗してもいいから楽しもうと思って臨んだ。120%出し切りました」と笑顔で話しました。上間愛夏さんは「この先苦しいことがあっても、体育コースのみんなで頑張ってきたことを思い出して乗り越えていきたいです」と話しました。



大観衆の前で息の合った演技を披露

喜屋武の組踊「本部大主」が 30年ぶりに復活

喜屋武の伝統芸能の一つ、組踊「本部大主」が9月21日、中央公民館で上演されました。昭和58年に開かれた上演会以来、実に30年ぶりの復活です。指導者や前回の舞台を知る人が少なくなったことから、後生にも残りたいと野原徹一区长や区民から声が上がリ、昨年4月に上演を決定、今年3月から稽古に励んできました。

「本部大主」は、北山城を攻めて按司を殺した本部大主を、按司の長男・若按司があだ討ちを果たすまでを描いた、2時間余の大作です。そのほか、「長者の大主」や獅子舞も上演されました。上演会には約600人の観客が町内外から訪れ、喜屋武区民が演じる伝統芸能を楽しみました。



組踊「本部大主」上演の様子



一流の演奏に感動 日露交歓コンサート2013

チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院による「日露交歓コンサート2013沖縄公演」が9月28日、中央公民館で開催されました。一流の演奏者たちが奏でるヴァイオリンやバラライカ(ロシアの代表的な弦楽器)などの演奏に、350人余の聴衆は酔いしれました。アンコールには「さとうきび畑」や「島人ぬ宝」などの沖縄の曲が演奏され、会場はあたたかい空気に包まれました。観客からは「じかに聴く音楽は本当にすばらしかった」「繊細な音色に酔いしれ、すてきな時間を過ごせた」などの感想が寄せられました。



野球で深める親子の絆

9月15、22の両日、全沖縄親子野球大会南風原町大会(主催・南風原町子ども会育成連絡協議会)が開催され、与那覇メッツAが見事優勝しました。本大会は、親と子のふれあいと地域交流の促進を目的とし、親子がひとつのチームとして野球を楽しむことで、お互いに対する尊敬の気持ちや絆を深めることを期待しています。試合会場では、普段の大会では見られない親子のファインプレーに大歓声上がり、チームメイトや家族から声援が送られていました。

優勝した与那覇メッツAと準優勝の北丘宮平少年野球は、南風原町代表として県大会(11月に北谷町で開催)へ派遣されます。



優勝した与那覇メッツA

平和の尊さを再確認 南風原町民平和の日

南風原町は今年、10月12日を「南風原町民平和の日」と決めました。12日当日、戦跡などを歩くピースウォーキングや平和コンサート、慰霊祭が催されました。城間町長は開式で「毎年『町民平和の日』を中心に悲惨な沖縄戦を後生に伝え、ここ南風原の地から平和の尊さ、大切さを広めていきましょう」とあいさつしました。

ピースウォーキングには、町内外から約40人が参加しました。町内の戦跡などを南風原平和ガイドの会の案内で歩いたのち、終戦後に南風原村役所が設置された大見武収容所(現在は沖縄電力与那原変電所)の跡地から町役場までの約3kmを歩きました。変電所前では、新垣源吉郎さん(字与那覇)と與座章健さん(字津嘉山)を証言者に招き、当時の収容所生活を語っていただきました。

慰霊祭は慰霊祈和之塔で行われ、遺族や町内の小・中学生、町関係者ら約80人が参列しました。黙とうや読経、焼香などを行い、戦没者の冥福を祈りました。町遺族会の玉那覇有賢会長は弔辞で「戦争の惨禍が再び繰り返されることのないよう、お互いに努力していくことを固く誓います」と恒久平和の誓いを新たにしました。



ピースウォーキング
南風原村役所跡を後にする参加者ら

収容所生活を証言する
新垣源吉郎さん(左)と與座章健さん(右)



慰霊祭の様子



平和コンサートの様子

サン印刷から100万円の 寄付を戴きました

有限会社サン印刷(字兼城)がこのほど創業60周年を迎えました。これを記念し、宮城剛社長が9月30日、町役場を訪れ、町育英会へ100万円を寄付されました。宮城社長は「お世話になってきた地域の方々に感謝しております。寄付金は、町の子どもの人材育成に役立ててください」とあいさつしました。城間町長は「子どもたちの国際交流等に有効活用させていただきます。南風原町から世界に羽ばたいていけるような子どもたちを育ててまいります」と感謝の言葉を述べました。



寄付金贈呈に訪れたサン印刷の宮城剛社長(右から2人目)

大城逸子さん県知事賞受賞 婦人の主張中央大会

9月19日、第46回婦人の主張中央大会(主催・沖縄県婦人連合会)が琉球新報ホールで開催され、町代表として出場した大城逸子さん(字喜屋武)が県知事賞を受賞しました。大城さんは「逆境の中で私を支えてくれたもの」という題で、介助を必要とする娘と共に過ごしながらも社会教育活動に積極的に参加し、地域や人との繋がりを大事にしてきたことで、幾度の困難にも立ち向かえたことを発表しました。そして「人生の中で思い



県知事賞を受賞した大城逸子さん(中央)

もよらない逆境が訪れたとき、社会と繋がっていくことで互いを支え合うことになる」と主張しました。